

令和2年度第2回学校評議員会の実施報告書

学校名

岐阜県立可茂特別支援学校 校長 平野 俊之

所在地 美濃加茂市牧野 2007-1 電話 0574-28-3150

1 会議の名称 岐阜県立可茂特別支援学校 学校評議員会

2 会議の構成

評議員	板津 幹彦	NPO 法人プラス・ワン理事
	生田 靖子	可児市こども発達支援センター「くれよん」所長
	蔵澄 寿磨子	就労継続支援B型事業所あゆみ館施設長
	加木屋 満	下米田地区自治会会長兼牧野区長
	三好 正司	元公立学校教頭（ご欠席）
学 校	平野 俊之	校長
	伊藤 英生	P T A会長
	山下 サツキ	事務部長
	吉村 智典	教頭
	河合 浩司	教頭
	保 義博	小学部主事
	浅井 洋子	中学部主事
	西田 智子	高等部主事
	三尾 葉子	教務主任

3 会議の目的 今年度の学校運営等について報告し、地域住民や保護者から幅広く意見を求め、来年度の教育活動の活性化につなげる。

4 会議の開催 令和3年2月8日（月） 9：30～11：30
可茂特別支援学校 プレイルーム
学校評議員4人と学校側9人が出席

5 会議の概要

(1) 学校長挨拶

- ・6月まで一斉休業をしていたが、その間オンライン学習等を行った。
- ・前回は書面開催とした。今回はコロナ禍の下ではあるが、直接ご意見をいただきたいと思っている。

(2) 本年度の各部実践報告

ア 小学部

- ・一斉休業中は、オンライン授業を通して子どもとつながり、授業再開を待つことができた。子どもたちが、明日も学校へ来たいと思える授業づくりを心がけ、体験を通じた活動から学習を深めている。新型コロナの感染に十分注意し、工夫して授業を行うようにしている。

イ 中学部

- ・6月から学校が始まり、新しい生活様式として検温、手洗い等が生徒に定着してきた。感染予防のため着替え指導もやめていたが、1年生では週1回の指導を始めた。
- ・オンラインで各教室をつなぎ、中学部全員での授業をおこなった。また、企業や店舗等へ教員が出向き、先方とオンラインを通して学習することもできた。常に新型コロナ感染症対策をしながら、できることを工夫して学習を進めている。

ウ 高等部

- ・生徒の障がい幅が広いという実態がある。卒業後の生活を見据えて、作業学習を中心とした学習を行っている。
- ・実習先に行けるように、日常のマスク着用を指導してきた。進路を決めるために、校外での実習を大切にしている。卒業予定者は進路先をほぼ決定できた。
- ・コロナ禍で校外学習を中止し、修学旅行は沖縄から県内に変更した。
- ・今後は、新棟建設及び高等特別支援学校機能の導入、新学習指導要領を踏まえた教育課程編成を考えていく。

(3) 学校評価等の報告

- ・保護者アンケートの回答結果について、昨年度と比較し顕著な点を説明する。
- ・「わからない」の回答が増えた点については、新型コロナ感染防止のため、学習活動を保護者に見てもらえる機会がなかったことが要因と考えられる。
- ・教職員の働き方改革の項目で、「わからない」という回答が1番多かった。保護者に実態が伝わりにいため、この結果につながったと考える。
- ・10月から朝の欠席連絡に Web アンケートシステムを利用してもらうようにした。それにより、1月からは管理当番の朝の開錠と電話当番業務を廃止した。

(4) 新棟建設・高等特別支援学校機能について

- ・現在は、屋外トイレと倉庫の工事を行っている。令和4年度中に工事が完了し、令和5年度から新校舎を使用できる。新棟では、高等部を中心とした学習活動を行い、高等特別支援学校の機能も導入する予定である。
- ・教室不足が一番の課題であり、そのため、増築することになった。工事期間中は、地域の皆様にご迷惑をおかけすることもあるかと思うが、ご協力、ご理解をいただきたい。できるだけ児童生徒の学習活動の妨げにならないように努力していきたい。

(5) 10周年記念式典について

- ・令和3年11月26日(金)に当校体育館で、新型コロナウイルス感染症対策を十分に行ったうえで実施する予定である。密にならないよう、式典に出席する人数を限らせていただく。現在、記念品や冊子を準備している。

(6) ご意見、ご質問等

意見1 ・学校は、新型コロナウイルス感染症対策をよくやっていると思う。

- ・会社では外国籍の従業員が多くなっており、必要に応じてポルトガル語や英語で対応している。学校でも外国籍の児童生徒が年々多くなっていると思うが、どれくらいの割合で在籍しているのか。
- ・コロナ禍にも関わらず、就職先をほぼ決めることができ、感心した。

(外国籍児童生徒の対応について)

→(教頭)ポルトガル語20名、タガログ語10名、英語5名、中国語1名が在籍しており、保護者向け通信や連絡帳の翻訳を行っている。また、保護者懇談には通訳が同席している。外国籍の児童生徒が増えているため、通訳の増員が必要だと感じている。

→(校長)翻訳業務は、職員に過度な負担がかかっているため、定型文の利用等での対応を考えている。母国語も分からない児童生徒に対して日本語でどのように指導していくのか、母国と日本の文化の差をどのように埋めていくのか等について考えていく必要がある。

(進路支援について)

→(教頭)最低限の実習を行い、進路決定することができた。今後も、会社や施設等の協力をお願いしたい。

→(校長)来年度の就職活動は、もっと大変ではないかと危惧している。

→(高等部主事)1年生の時からいろいろな実習先へ行き、自分のやりたいことを見つけることが大切である。毎年の実習の積み重ねにより、力を付けていけるのではないかと。

意見2 ・新型コロナ対策を引き続き行っていけるとよい。

- ・作業学習の内容が、就職に直結できない班もあるとのことだが、できるだけ就労内容に近くなるような学習を考えてはどうか。

意見3 ・小、中、高とも重点課題によく対応されている。

- ・コロナ禍だからやめるのではなく、どうすればできるのかを工夫して考えているところがよい。
- ・特に高等部では、責任をもって働くことの大切さを学んでいるところがよい。

意見4 ・オンライン活用の取組がよくわかった。

- ・コロナ禍で今までとは違った生活になり、学校は大変だったと思う。教職員も一つ一つの対応を考えることに大変苦労されているのではないかと。
- ・各部主事の報告より、児童生徒が笑顔で活動ができていることが分かった。
- ・進路についても心配したが、ほぼ決まっているということによかった。
- ・今後も本校での支援を受けたい保護者のニーズは多くなると思うが、手狭だった校舎に新棟が建設されるということによかった。

- 意見5
- ・コロナの感染予防がしっかりされており、児童生徒が畑でいきいきと学習している姿を見かける。
 - ・登下校時に教職員が道路に立ってくれるため、こちらも安心して通ることができる。学校に面した道路は、大型車両も多く通るので注意してほしい。
 - ・「にこりん祭」は、地域の人と触れ合える場である。何とか開催できるようになるとよい。下米田地区の文化祭にも引き続き作品を出してほしい。

(7) 連絡事項

- ・来年度より学校評議員に代わり、学校運営協議会となる。地域の中で児童生徒を育てていくため、全県立学校に設置することになった。地域の方も学校運営にご参加いただく場となる。推薦いただける方をご存じでしたら、教えていただきたい。
- ・卒業式及び入学式は、このような状況のため、関係児童生徒と保護者及び関係職員のみで行わせていただく。

6 会議のまとめ

評議員の皆様には、新型コロナウイルス感染拡大防止対策の中での学校運営について、例年どおりできないから中止するのではなく、できる方法を工夫するという姿勢に高い評価をいただいた。また、地域の方々が本校へ高い関心をもっていただき、「新しい生活様式」に取り組みながらも地域連携を続ける大切さを感じた。

今回いただいたご意見を踏まえて、来年度の学校運営協議会発足に向けた学校運営改善のための課題としたい。